

平成27年5月18日

外国人来訪者に対する熱中症予防啓発の強化について

さいたま市長 清水 勇人

平成26年中の訪日外国人旅行者数は、1,300万人を超えており、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、更なる増加が見込まれている。

このような中、総務省消防庁の「平成26年度救急業務のあり方に関する検討会」において、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた課題として、外国語対応、熱中症対策の強化、多数傷病者発生時の対応、感染症対策の強化等が挙げられているところであり、国では今後、多言語音声翻訳システムの導入検討や、緊急通報アプリの開発等が進められることとされている。

とりわけ、日本の気候に慣れていない外国人来訪者も多いことや、大会開催予定期間が夏期であることなどから、熱中症予防や、体調不良時の受診案内などの情報を多言語により提供していくことが必要不可欠である。

このことから、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、外国人来訪者が安心して滞在できるよう、国に先駆けて、医療対応や救急搬送が必要になる前の段階での対策として、熱中症になること自体を予防するための啓発強化について、九都県市共同で取り組むことを提案する。

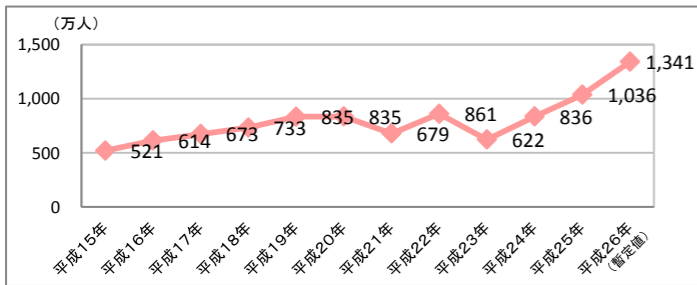
○検討内容の例

- ・ 多言語による熱中症予防啓発方法についての検討
- ・ リーフレットの作成

外国人来訪者に対する熱中症予防啓発の強化について

現状と課題

1 訪日外国人旅行者数の増加



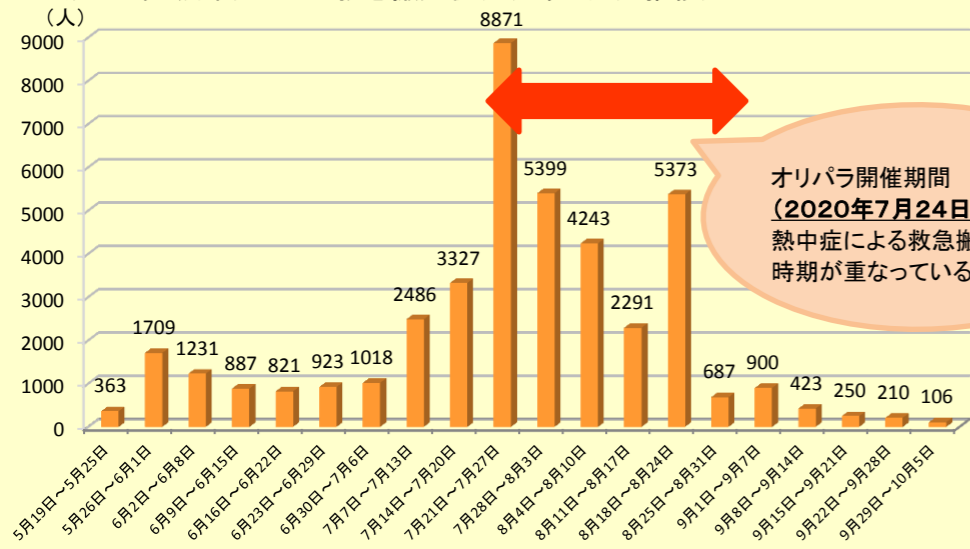
出典: 日本政府観光局(JNTO)

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて
2000万人の高みを
目指すこととされている。

観光立国推進関係会議
『観光立国実現に向けたアクション・プログラム2014
-「訪日外国人2000万人時代」に向けて-』

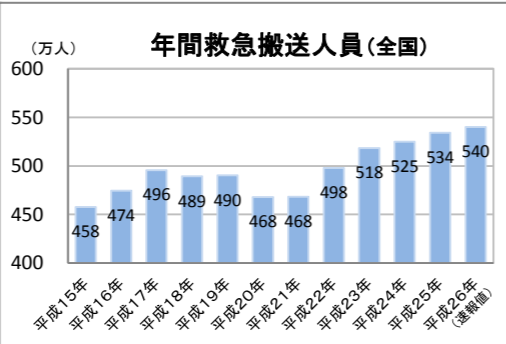
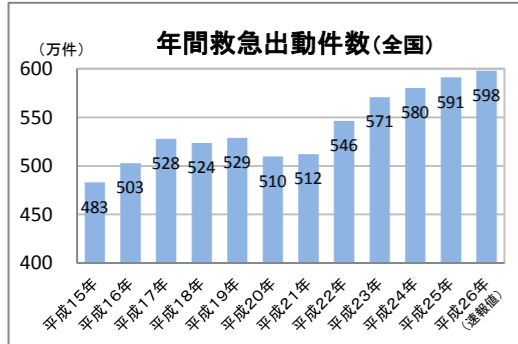
2 救急搬送状況

平成26年 熱中症による救急搬送状況(全国・週別推移)



出典: 総務省消防庁 熱中症情報

オリパラ開催期間
(2020年7月24日～9月6日)と
熱中症による救急搬送者の多い
時期が重なっている。



出典: 総務省消防庁

真夏の大会で日本の気候に慣れない外国人来訪者が
熱中症になる危険性が高い！

国の動向

総務省消防庁 平成26年度救急業務のあり方に関する検討会

【2020年オリパラに向けた課題】

- ①外国語対応
- ②熱中症対策の強化
- ③多数傷病者発生時の対応
- ④感染症対策の強化 等

【今後の方向性】

- ・外国語対応救急隊の養成 ・コミュニケーションシート・ボードの普及
- ・多言語音声翻訳システム等の導入 等
- ・啓発手段(ツイッター・リーフレット)の外国語版の作成・配布
- ・応急手当講習を通じた熱中症予防法や応急手当法の啓発 等

厚生労働省

- 外国人患者受入れ医療機関認証制度の整備 ⇒平成24年度から実施
- 医療機関における外国人患者受入れ環境整備事業 ⇒医療通訳、外国人向け医療コーディネーターの配置促進

提案

国で検討されている方策のうち、実施可能なものから順次実行に移していくことが必要

熱中症は、正しい知識を身に付け、自ら体調管理をすることで予防可能

本市の現在の取組

《救急対応》
外国人(外国語話者)からの119番通報等に係る通訳業務
《熱中症予防啓発》
日本語版リーフレットの作成

各都県市の現在の取組

《救急対応》
外国語音声ガイダンスシステムの活用等
《熱中症予防啓発》
日本語版リーフレットの作成
ホームページでの周知 等

- ・多言語による熱中症予防啓発
- ・効果的な予防啓発方法・情報発信方法
- ・九都県市共通リーフレットの作成 等について検討

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、外国人来訪者が安心して滞在できるよう、国に先駆けて、医療対応や救急搬送が必要になる前の段階での対策として、熱中症になること自体を予防するための啓発強化について九都県市共同で取り組む。